

「港の風景」写真コンテスト 2022

本コンテストは、写真を通じて津々浦々の港や海辺の四季折々の姿を表現していただき、ともすれば港と疎遠になりがちな方々に対してその魅力を再認識していただくと共に、ウォーターフロントへの関心を高めていただくことを目的としています。

今年で31回目の本コンテストには、604点の応募がありました。

いただいた作品に対して令和4年10月6日に厳正なる審査を行った結果、次のとおり入選作品を決定させていただきました。

総評

今年で31回目を迎えた「港の風景」写真コンテストには、コロナ禍にもかかわらず600点余りの応募作品が寄せられました。目まぐるしく変化する社会情勢や厳しい地球温暖化による港の環境の変化を、レンズを通して敏感に感じ取られていることが多くの作品から伝わってきます。と同時に、写真の技術的な表現で気にかかるのは、デジタルカメラやプリンターの性能が向上している反面、加工技術に頼り過ぎる傾向があることです。自然な描写から逸脱している作品については、当コンテストの主旨とかけ離れているとの意見が複数の審査員から上がりました。審査のポイントとして、わが国の歴史的背景や各地の自然豊かな風景の中で、身近な生活や行事と共に存続して来た港湾の姿をあるがままに捉えていただいている作品を評価致しました。次年度のコンテストもこのような主旨をご理解いただき、多くの力作をご応募くださることを期待しております。



最優秀賞 国土交通大臣賞

◎能登正俊 東京港

島しょへの積載作業

竹芝棧橋は、長年、八丈島や小笠原諸島などへ生活物資を貨客船で運搬する重要な任務を遂行する拠点でもあり、島の生活のパイプラインを担っています。重要な積み荷作業の様子を捉えた作品から、人々の生活を長年支える竹芝棧橋への敬意を感じました。夜空を背景に映えるコンテナの鮮やかな色が印象的です。



国土交通省港湾局長賞

◎飯田忠雄 清水港

接岸

大型船舶の接岸は非常に難しく、港湾技能者として国家資格を持つ水先人により慎重な接岸作業の瞬間が切り取られています。ズームレンズを使った対岸からの大胆な構図で、タンカー船の大きさと迫力が表現され、色調も美しくプリントされ、自然に撮影されており、多くの審査員の先生方と好感を持って拝見しました。

(公社)日本港湾協会会長賞

◎山口正明 横浜港

雨上がりの開店準備

「くじらのせなか」と名づけられた横浜港大棧橋のウッドデッキには、春の日差しの下、のんびりとした週末の様子が生かされています。海に浮かぶ屋上公園の広がりや広角で表現され、鮮やかなキッチンカーの色彩も良いアクセントとなっており、現在の横浜港の風景を歴史の1ページとして記録している点に注目しました。



港湾海岸防災協議会会長賞

◎藤井昭浩 沼津港

落陽

東日本大震災が起きてから地元の防災意識も一層高まり、東海地震津波対策事業として9年の歳月をかけて造られたのが、沼津港の大型展望水門「びゅうお」です。受賞作品は、夕景をバックに画面を大きく切るような大胆な構図で、水門のシルエットと青いライトの色調を強調して撮影し、防災の意識を高める強いメッセージが表現されています。





部門賞「防災」

◎富山隆志 細島港

植林

宮崎県延岡市細島では、「防災の山」牧島山の植林事業が地元の小学生により行われています。体験学習として防災意識を身につけることは、未来を見据え、自らの命を守るための重要な活動です。港湾が果たすべき防災の役割の重要性に対するメッセージ性が強く感じられる点から、防災部門賞として評価選出しました。



部門賞「自然・歴史」

◎渡部孝明 都万漁港

いまはむかし

太陽光を受けて輝く海底の岩が写り込むことで透明感のある海の様子が伝わり、未来に残したい漁業・漁村の歴史文化財産百選として選定されている地域の豊かな風景が見事に切り取られています。民族的史料として再現された船小屋の後部には住居も隣接しており、伝統的な人の営みと美しい自然の繋がりがよく表れている作品です。



部門賞「みなとの活動」

◎山田宏作 喜入備蓄基地

日本の生命線

写真は原産地から運ばれて来た石油を大型タンカーからタンクに備蓄する作業が見えるように、橋と施設を俯瞰した構図となっています。世界最大級の石油備蓄基地のダイナミックな規模感が伝わるよう意識したアングルと言え、港湾の役割を第一に考えて自然な色調で、壮大な作業の瞬間を切り取っています。



部門賞「賑わい」

◎有田勉 山田漁港

御神渡り

岩手県宮古市山田町の伝統的な祭りを撮影した、躍動感溢れる作品です。東日本大震災による津波被害と近年のコロナ禍による地域活動の制限。そんな困難の時を乗り越えて3年ぶりに開かれた祭りに、人々の大きな喜びと強い繋がりが写り込んだ一枚です。災害を乗り越えた山田町の人々の絆に、コミュニティの大切さを痛感します。



◎芝崎静雄 今治港

瀬戸の夏

今治港開港100周年の花火大会とあって立派で鮮やかな色とりどりの花火が大変美しく写り込んでいる作品です。まるで夏の夜空に大輪の花々が咲き誇るような輝きは、街の人々に元気を与えたことでしょうか。しまなみ海道の来島海峡大橋をバックに動きのある構図も魅力的です。強いて申し上げるとすれば、色調補正で赤色をやや抑えた方が自然に見えます。



◎杉浦正幸 波方港

進水の日集う

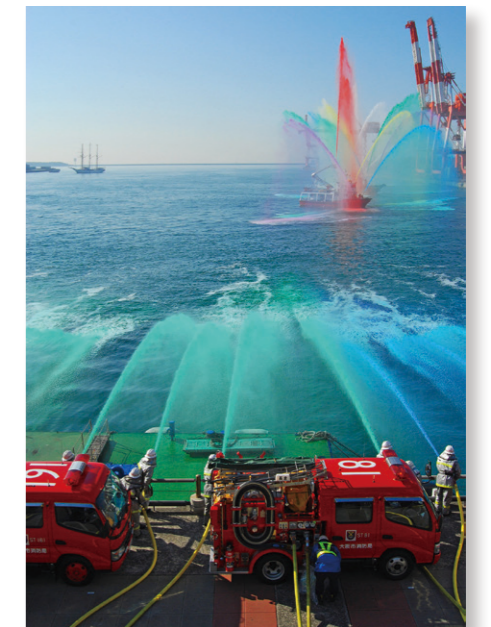
造船で有名な波方造船所。立派な進水式で船の安全を祈願する行事を捉えた一枚です。広角レンズで大きな船首をアップで写した構図は、今にも動き出そうとするガット船のたくまさが表現されており、鮮やかな朱赤の船首の造形美を強調したユーモラスな作品で、紅白のくす玉と多くの人で賑わう港の様子が良く写り込んでいます。



◎森川清美 姫路港

それぞれの休日

中島埠頭は姫路港のほぼ中央にあり、大型船舶が往来し、コンテナ貨物も取り扱う国際貿易港です。その一方でカワハギ釣りなどで有名です。多くの釣り人と赤灯台のコントラストがグラフィック的で面白く、鮮やかな赤い太陽の中にシルエットが浮かび上がる様子は写真ならではの表現で美しくドラマティックな仕上がりとなっています。



◎金岡明光 大阪南港

南港の出初式

大阪には三つの大きな港が存在します。新春の正月明けの消防出初式に行われる放水ですが、一般の人にも防災意識を高めてもらう啓蒙活動として、近年は色とりどりの水を放水するようになりました。明るく前向きに防災活動を捉えた作品は、子供たちへの防災意識を高めるための出初式の重要な役割を意識した点が評価されました。

◎藤原利忠 北条港

三年ぶりの祭り

愛媛県の北条港の伝統的な神事、鹿島まつり。「鹿島の櫛練り」は戦勝祈願のための祭りとして船で海上を練り歩く祭りは、県指定の無形民族文化財にも指定される歴史的にも貴重な行事です。コロナ禍で3年ぶりの祭りとして船の上で勇壮に演技をする青少年も生き生きと躍動感とスピード感に溢れ、動きのある構図です。

入 選

カメラやプリント技術の向上により、作品の仕上がりは益々芸術的な進化を遂げて甲乙付け難く、審査員一同、今年も入賞作品の最終絞り込みに苦戦しました。入賞作品に共通する傾向として、構図は面白いものの、部門テーマが曖昧な作品が多いほか、構図や色調のシャープさが弱い作品、陰の調子の仕上がりが単調で、ハーフトーンが濃れてしまっている作品もありました。次なる撮影の際には、フレーミングに加えて光の補正や色調整をさらに工夫されるとより良い作品になることでしょう。全国の写真愛好家の皆さんがレンズを通して港湾の姿を写し留めた作品の数々はわが国の貴重な記録です。ぜひこれからも撮影を継続していただけたらと思います。



◎我井孝太
街に根付く可動橋



◎山崎秀司
時化する間人灯台



◎山内佳子
待っていたイベントの日



◎柏館健
まき網手入れ



◎佐々木孝
接岸のとき



◎横山彰
ケーソン吊り上げ



◎出口慎也
静寂



◎中村光雄
国防所の今



◎大山和伸
雪をまとう八幡堀



◎佐藤宣夫
夕暮れ時の出航



◎松田裕次
ひよつとここでお別れ



◎浅見崇司
船より高いこいのぼり



◎鴨野昭夫
国を守る

◎鈴木修吉郎
港の主役



◎能登正俊
コンテナターミナル



◎ゲカチエン
夜色



◎雪本信彰
岩と石積みと恋人の聖地



入 選

◎平野昌子
水上から
メリークリスマス



◎八木信義
晴海ふ頭の夜景

◎藤井昭浩
夜明けの銀河



◎川崎信義
小友祇園祭

◎田中雅之
栄枯の証人



◎松本美沙
坂の町

◎山西典夫
夫婦岩と灯台



◎白石信夫
石積み波止の春

◎高尾慎次
ブルーインパルスが
舞う



◎奥谷裕
夜に蠢く

国土交通大臣賞

能登正俊「島しょへの積載作業」(東京港)

国土交通省港湾局長賞

飯田忠雄「接岸」(清水港)

日本港湾協会会長賞

山口正明「雨上がりの開港準備」(横浜港)

港湾海岸防災協議会会長賞

藤井昭浩「落陽」(沼津港)

部門賞「みなとの活動」

山田宏作「日本の生命線」(喜入備蓄基地)

部門賞「防災」

富山隆志「植林」(細島港)

部門賞「賑わい」

有田勉「御神渡り」(山田漁港)

部門賞「自然・歴史」

渡部孝明「いまはむかし」(都万漁港)

優秀賞

芝崎静雄「瀬戸の夏」(今治港)

森川清美「それぞれの休日」(姫路港)

杉浦正幸「進水の日集う」(波方港)

藤原利忠「三年ぶりの祭り」(北条港)

金岡明光「南港の出初式」(大阪南港)

入選

戒井孝太「街に根付く可動橋」

鈴木修吉郎「港の主役」

能登正俊「コンテナターミナル」

ゲカチェン「夜色」

山崎秀司「時化する間人灯台」

山内佳子「待っていたイベントの日」

柏館健「まき網手入れ」

雪本信彰「岩と石積みと恋人の聖地」

横山彰「ケーソン吊り上げ」

出口慎也「静寂」

松田裕次「ひょっとここで別れ」

佐々木孝「接岸のとき」

大山和伸「雪をまとう八幡堀」

佐藤宣夫「夕暮れ時の出航」

浅見崇司「船より高いこのぼり」

中村光雄「国防所の今」

八木信義「晴海ふ頭の夜景」

鴨野昭夫「国を守る」

平野昌子「水上からメリークリスマス」

田中雅之「栄枯の証人」

松本美沙「坂の町」

高尾慎次「ブルーインパルスが舞う」

寺尾幹男「夜も活況」

山中健次「通学渡船」

藤井昭浩「夜明けの銀河」

奥谷裕「夜に蠢く」

松本雄作「船大工の休日」

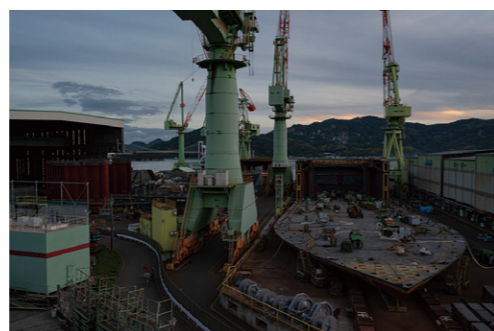
片山和澄「ガーデンネックレスの賑わい」

川崎信義「小友祇園祭」

山西典夫「夫婦岩と灯台」

白石信夫「石積み波止の春」

◎寺尾幹男
夜も活況



◎松本雄作
船大工の休日

◎山中健次
通学渡船



◎片山和澄
ガーデンネックレスの
賑わい

主催
(公社)日本港湾協会
港湾海岸防災協議会

後援
国土交通省

協賛
(一社)日本旅客船協会
(一社)ウォーターフロント協会
(一社)日本外航客船協会
(一社)日本マリーナ・ビーチ協会
(一財)みなと総合研究財団
(一財)港湾空港総合技術センター
富士フィルムイメージングシステムズ(株)

審査員(順不同・敬称略)
齋藤 潮(東京工業大学環境・社会理工学院教授)
廻 洋子(敬愛大学特任教授)
富岡睦草(写真家)
松野正雄(写真家)
逸見 仁(写真家)
衛藤謙介(国土交通省港湾局海洋・環境課長)
神谷昌文(国土交通省港湾局海岸・防災課長)
大脇 崇(公社)日本港湾協会理事長